

# 唐人川河川整備計画

平成15年4月

熊 本 県

# 唐人川河川整備計画

## 目 次

第1章 唐人川流域の概要.....	1
第2章 河川整備計画の目標に関する事項 .....	2
第1節 計画対象区間 .....	2
第2節 計画対象期間 .....	2
第3節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 .....	2
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 .....	3
第5節 河川環境の整備と保全に関する事項 .....	3
第3章 河川の整備の実施に関する事項 .....	4
第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工 により設置される河川管理施設の機能の概要.....	4
第1項 河川工事の目的、種類及び施工の場所 .....	4
第2項 河川管理施設の機能 .....	4
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 .....	4
第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項 .....	4
第1項 超過洪水対策 .....	4
第2項 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項.....	5

(参考図)

河川計画位置図

河川横断図

## 第1章 唐人川流域の概要

唐人川は、菊池川下流部左岸に位置し、熊本県玉名郡天水町と熊本市の境にある三ノ岳（標高 681m）に源を発し、天水町、横島町の水田地帯を流下して有明海に注ぐ流域面積約 16km<sup>2</sup>、幹川流路延長約 11km の二級河川である。

気候は温暖であり年平均気温は約 16°Cである。流域の年平均降水量は約 1,600mm であり、降雨は梅雨期や台風期に集中し、この時期の豪雨により災害が多く発生している。

本地域の地質は、山地部が主に安山岩類で構成され、平地部は河川によって運搬された土砂や砂礫からなっている。

唐人川は 1,600 年代に堀替えられた菊池川の旧河道であり、その後の数次にわたる干拓事業を経て現在の姿となったと云われている。また、当時の河口にあたる石塘の構築は、入柱を立てたというほどの難工事とされ、周辺には石塘遺跡、入柱の碑が残っている。

唐人川の上中流部は三方を丘陵地に囲まれた水田地帯を蛇行しながら緩やかに流れ、川幅も変化に富み、のどかな田園景観を呈している。山裾には唐人川の主な水源であり、熊本名水 100 選の 1 つとなっている湧水池「尾田の丸池」があり、周辺は散策やヘラブナ釣り等、地域住民の憩いの場として親しまれている。また、河川水は流域農地の灌漑用水として利用されている。

防潮柵門のある石塘橋より下流は 1,600 年代以降に築造された広大な干拓農地のなかを緩やかに流れて有明海に注いでいる。この区間は感潮域となっており植生に乏しいが、干潮時には干潟を形成し、特に河口部は遠浅で知られる有明海特有の景観をなしている。

唐人川の動植物について、上中流部では潮の影響がなく流速も小さいためオイカワ、ギンブナ等のほかセボシタビラ、カゼトゲタナゴ等が、感潮区間となる下流域ではボラ、シマハゼ等の魚類が生息している。植生は平地部の河岸にヨシやマコモ等の群落が広がり、山地部には地域の主要な農産物であるミカンの他、スギ、ヒノキの人工林がみられる。

水質について、本水系では環境基準の類型指定はされていないが、潮の影響を受けない石塘橋より上流においては BOD 約 2mg/l 程度で安定しており良好である。

唐人川の河口から石塘橋までの区間は、干拓時に築造された堤防を補強し、治水対策は概ね完了しているが、石塘橋より上流域は地盤高が低く、河道の断面も小さく無堤の状態であるため浸水被害が頻発している。特に昭和 57 年 7 月の豪雨をはじめ平成 3 年、平成 5 年には多数の家屋が浸水するなど大きな被害が発生している。

また、高潮対策としては、干拓事業に伴う海岸防護施設として河口部に防潮水門が設置されている

## 第2章 河川整備計画の目標に関する事項

### 第1節 計画対象区間

河口から二級河川法指定区間の上流端まで約6.1km区間を対象とする。

(河川計画位置図 参照)

### 第2節 計画対象期間

本計画の対象期間を概ね30年間とする。

### 第3節 洪水・高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

唐人川流域は、これまで度々洪水氾濫による被害を受けている。特に石塘橋より上流域は昭和57年7月の洪水をはじめ、近年では平成3年、平成5年に家屋浸水や農地の冠水などの被害が発生している。

本河川整備計画は、洪水氾濫による被害を河川整備により解消することを主な目的として、関連する他事業との調整を図りながら、河川環境に配慮した治水・利水対策を推進するものとする。

整備にあたっては、流域の人口や資産の状況を考慮し、概ね30年に1回発生する規模の洪水を安全に流下させることのできる整備を目標とする。

下流域の高潮対策については、海岸堤防の一連の施設として設置されている唐人川樋門が防潮水門として機能を果たしている。

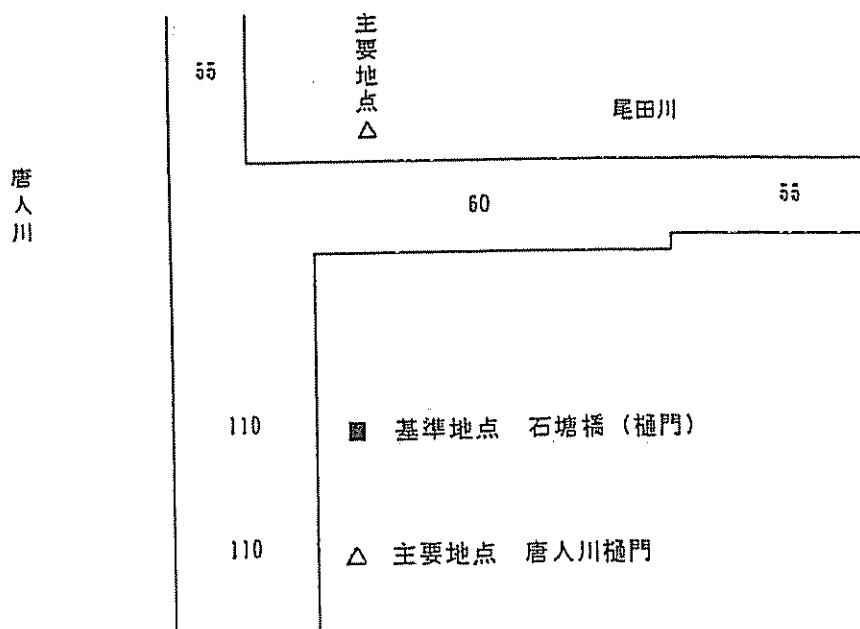


図-2.1 流量配分図 (年超過確率 1/30)(単位:m<sup>3</sup>/s)

#### 第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

唐人川の河川水は、沿川農地約490haの灌漑用水として利用されており、その主な水源は上流部に位置する尾田の丸池からの湧水と、隣接する菊池川流域の水田からの還元水であるが、湧水は過去の渇水においても枯渇した事がなく、比較的安定した流量を有している。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、今後観測を継続して把握に努めるものとする。

#### 第5節 河川環境の整備と保全に関する事項

湧水池周辺は古くから地域住民の憩いの場として親しまれており、特に清水が流れ込む上中流部は水生動植物にとって良好な生息環境を形成している。

近年、身近に自然を体験できる場として、河川の役割がますます重要になっていることから、整備にあたっては現在の河道形態や生態系に配慮した構造・工法を採用し、これらの自然環境を保全しながら、良好な水辺空間の創出に努める。

### 第3章 河川の整備の実施に関する事項

#### 第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事施工により設置される河川管理施設の機能の概要

##### 第1項 河川工事の目的、種類及び施工の場所

浸水被害が常襲化している石塘橋上流において、築堤や掘削、構造物の改築等により河川疎通能力の向上を図り、概ね30年に1回発生する規模の洪水を安全に流下させることができることを目標とする。

河川工事にあたっては、現存する動植物の生息・生育環境等、自然環境への影響を最小限にとどめるよう配慮するとともに、地域への社会的、環境的対応を実施し、施工の影響を軽減するよう努める。

##### 第2項 河川管理施設の機能

河川工事により設置される河川管理施設は以下に示すとおりである。

- ・位置：石塘樋門から法河川上流端まで
- ・延長：3,100m
- ・工種：築堤工、護岸工、橋梁工等

#### 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川の維持管理に関しては、法河川区間において、災害発生の防止又は軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から適切に行うものとする。

堤防の亀裂や陥没・漏水、護岸の破損等、異常箇所の発見、法面の除草等を実施し、河川の機能維持と沿川地域を含めた環境の保全を図るとともに、樋門・樋管等の構造物の定期的な点検により、必要に応じて各施設の改善や補修を行う。

また、許可工作物の対策・保全及び占用された土地の適切な使用が講じられるよう指導を行う。

#### 第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

##### 第1項 超過洪水対策

計画規模を超過する洪水氾濫を含め、被害の発生が予想される場合は、地元天水町、玉名市、横島町や地域住民に対し、地域の自主的な水防活動や避難経路の確保等に資する降雨・水位等の洪水情報を迅速に伝達する等、地域との連携を図り、被害の軽減に努める。

平常時は浸水予想区域図等の作成・公表等、災害情報の提供を推進するとともに、地域が主体となり推進する避難地・避難路等を明示したハザードマップの作成・公表

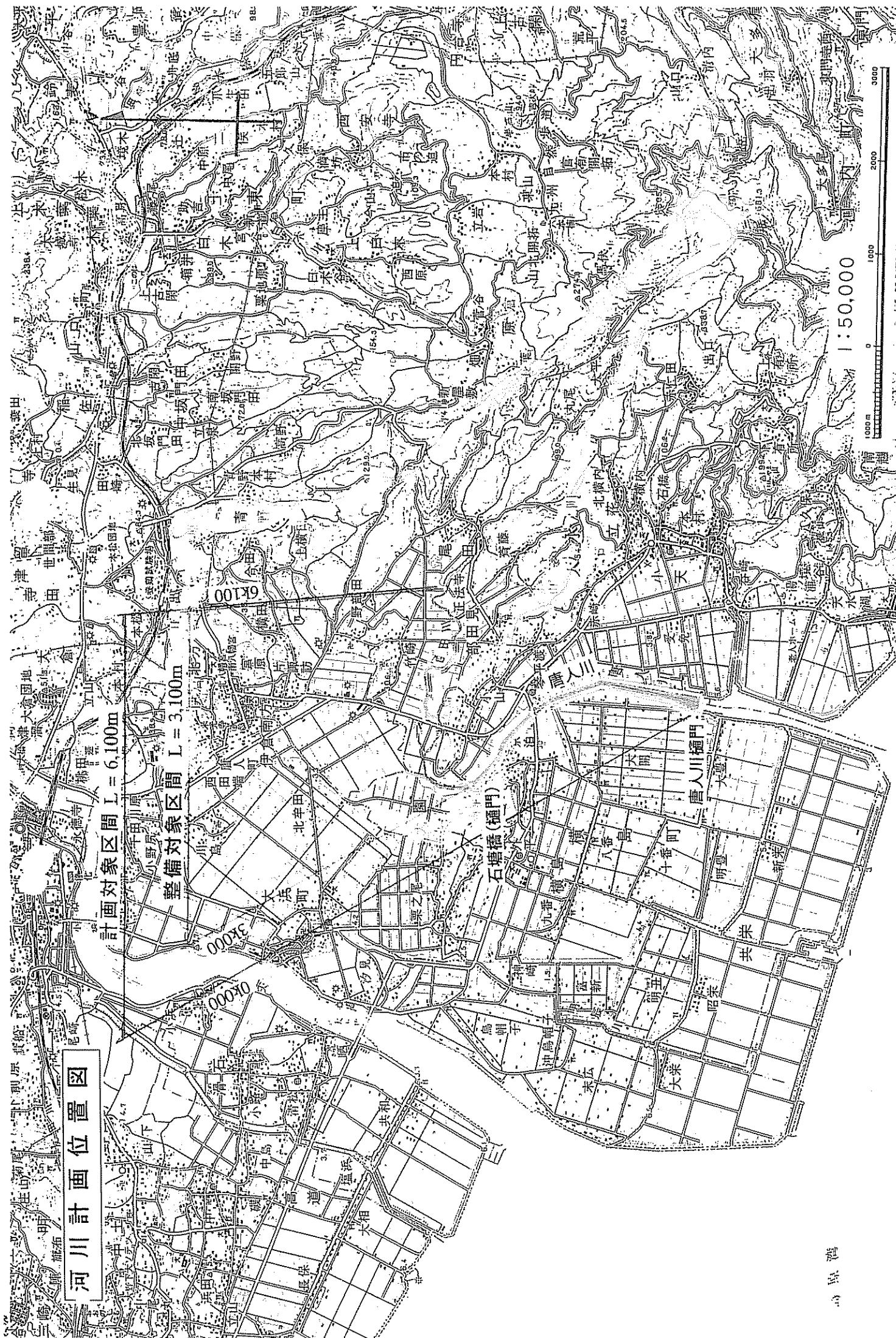
を積極的に支援する。また、防災意識の啓発・高揚を図るため、住民参加型の防災教育、訓練を支援する。

併せて、流域の視点に立った総合的な治水対策を行うため、関係機関との連携を図り、土地利用形態の変更等に伴う流出量の増加を抑制する。

## 第2項 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項

河川の機能を存続させ、また、河川環境を保全し、良好な形で将来へ引き継いでいくためには、流域の人々や地域との連携、協力が不可欠である。そのための方策として、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供すること等により、河川愛護意識の高揚を促す。また、流域住民の河川愛護活動を積極的に支援していく等、地域社会との連携を図っていく。

# 唐人川計画対象区間及び整備対象区間

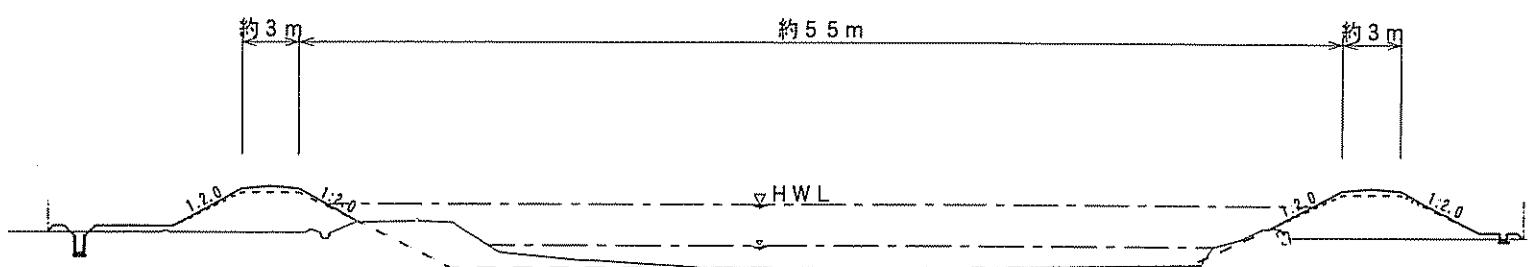


## 河川計画横断面図

S = 1 / 400

唐人川

石塘樋門付近(3K200)



尾田川

多嘉橋付近(5K200)

